

小豆栽培

〔延喜式三十九〕耕種園圃〔内膳三十九〕

營小豆一段、種子五升五合、總單功十三人半、耕地一遍、把犁一人、馱牛一人、牛一頭、料理一人、畦上作二人、五下子半人、芸二遍、四人、採功二人、打功二人、

〔農業全書二〕赤小豆

赤小豆是又色々あり、赤白緑の三色尤形の大小色づき、所中にも小粒のほそき赤小豆を專種る事なり、小豆は李に生ずとて、すも、のさかゆる年、小豆よく實るものなり、うへて六十日にして花咲、又六十日にして熟する物なり、種る地の事、大かた麥跡を用ゆべし、是も夏秋二色あり、夏小豆は麥跡は遅し、畑餘計あるものは、去年の粟跡を用ゆべし、又秋小豆は夏至の後十日過て、うゆるを上時とし、土用の入を中時とし、同じく半を下時とす、是を過ればをそし、麥跡にてもかきこなし、礮地ならば少灰糞を用ゆべし、種子を凡一段に二升、或二升五合、横筋を切ても、又ちらし蒔にても、薄くむらなく、さかへ茂りて後、枝葉のつき合ざるを好む物なり、中うち芸り二遍ばかりして、葉ごとく、落て後ぬき取べし、小豆は三青四黄と云て、さやの三つはいまだ青く、四つ黄なる時ぬき取といへども、小豆は霜にあふまで置ても落る事なし、本より末まで糝なくよく實る物れば、勝手にまかせて取收むべし、又榊黒き時、雨の後小豆を種るとも云なり、又春蒔て夏熟し、さやの黒きばかりをさ、げをもることく、段々もりてとるあり、常の小豆に味はおとれり、是を夏小豆と云なり、又一種蟹の目小豆とて、其粒細ながく、蟹の目に似たり、是はつる長く、かきや竹などには、せ、糞養によりてことの外さかへば、びこり、實り多き物なり、味は秋には劣れり、又緑色の物あり、是又味ひよからず、蔓長くそらに榮へ、土地の費すくなく、實り多き事を好む者は、是を作るべし、又白豆しろあまぎあり、菜豆なまめのごとくにして子長し、四五月種るのよし、本草に見えたり、白豆しろあまぎや、まりなり、總じて、小豆は八新の内の一種にて、出來代りて後は性あしく、味もよからず、古き